

# 山陰最古の御来屋駅舎、 国登録有形文化財へ!

平成28年1月に意見具申をしていた御来屋駅舎の国登録について、7月15日に開催された国の文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、国登録有形文化財(建造物)として登録することの答申がなされました。

大山町内では、6件目の登録となる予定です。

## 登録有形文化財とは…

近年の国土開発や都市計画の進展、生活様式の変化により社会的評価を受けるまもなく消滅の危機にさらされている近代等の文化財建造物を後世に残していくために作られた「文化財登録制度」に登録された文化財のことです。

従来の指定制度よりも規制は緩やかで、建造物の積極的な利活用をすることが可能です。



きょういく  
通信

大山町教育委員会事務局  
0859-54-5211

登録名称	山陰本線御来屋駅本屋及び旅客上屋
所在地	鳥取県西伯郡大山町西坪字谷奥1300-17
員数	1棟
構造等	木造平屋建、棧瓦葺き 明治35年建築

## まちのたから(17) 文化財室通信 御来屋駅の巻

日本初の鉄道が新橋〜横浜間に開通してから30年後の明治35(1902)年11月1日、待望であった山陰線敷設第1期区間として境〜御来屋間が開通しました。御来屋駅は境駅からの終点駅としてその歴史の幕が開けました。

境〜御来屋間が第1期区間となったのは、路線区間が比較的平坦であることに加え、境の港があることや、当時庄内村富長(現大山町富長)にあった軍馬補充部大山支部を重視したことなど軍事上の必要性が高かったことが理由とされています。

軍馬補充部とは、陸軍が民間から買い上げた二歳馬を五歳馬まで育成・調教した施設です。軍馬補充部大山支部は、富長に支部本部が置かれ、赤碕(現琴浦町)と旭川(現岡山県真庭市)に派出部、御机(現江府町)に出張所を持ち、育てた馬を岡山・善通寺・広島・姫路の四師団に補充供給することが主な任務でした。

ここに軍馬補充部が置かれたのは、日本遺産でストーリーにした牛馬市が盛んになったのと同様に、大山の麓の原野が牛馬産育の適地であったことも要因と考えられます。

御来屋駅舎は、明治35年の開業当時に建てられ、建築から百余年を経ており、現在では山陰線敷設当時の現存最古の駅舎です。今回答申を受けた登録の範囲は、駅舎部分である「本屋」とプラットホームの上に架かる「上屋」部分です。本屋は木造平屋建て、赤棧瓦葺き、全体的には切妻造平入形式で、東西面の屋根を切り上げた兜造りが特徴的です。駅舎の内部を従来の和風な木造建築としながら外観を洋風に近づけるという地方の近代化を表す建築として位置づけられます。平成14(2002)年に行われた山陰鉄道開通100周年事業の際に駅舎東側部分を中心

に改修されていますが、全体的には建築当初の姿が踏襲されています。

山陰最古であり今なお現役の駅舎として活躍する御来屋駅。現在は駅舎東側部分に地産地消の直売所である「みくりや市」が営業されています。これからも駅舎として利用しながら、文化財としても後世に伝えていきたいものです。

(人権・社会教育課文化財室)



▶往時を伝える出札口と貨物取扱所